

青少年ふくしま

福島県青少年育成県民会議
第70号
令和3年7月29日

平素より、皆様には福島県青少年育成県民会議の事業につきまして、温かい御支援や御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、青少年を取り巻く環境は、従来の社会環境の変化に加え、新型コロナウイルスによる影響も大きく、厳しい日々が続いています。

このようなときだからこそ、青少年が心身ともに健康で社会に参画できるよう、家庭・学校・地域において、大人が青少年の生活や考え方に理解を深め、自立を支える取組が大切であると考えます。

当県民会議は、各市町村民会議、関係機関・団体、企業、NPOの皆様との緊密な連携のもとに、青少年健全育成のために諸活動を展開してまいりますので、これまで以上に皆様の御支援、御協力をお願いいたします。



令和2年度「家庭の日」
3・4年生絵画部門最優秀賞
「スイカで笑顔」
いわき市立泉北小学校 谷田部佳歩さん

組織

令和3年度 福島県青少年育成県民会議について

【役員】

- ・ 会長 : 内堀 雅雄[福島県知事]
- ・ 副会長 : 富田 孝志[(公財)福島県青少年育成・男女共生推進機構理事長]
: 小林 清美[(一財)福島県婦人団体連合会会長]
- ・ 理事 : 11名[鈴木 忠夫 常勤理事は福島県青少年会館館長と兼務]
- ・ 監事 : 2名

【会議員】

- ・ 関係行政機関、学識経験者、青少年育成団体、青少年団体、報道機関 本年度140
団体・個人)

重点推進事項

- 1 「大人が変われば、子どもも変わる県民運動」の推進
- 2 「地域の子どもは、地域で見守り育てる運動」の推進
- 3 青少年関係機関・団体との連携の強化
- 4 青少年を取り巻く有害環境対策の推進
- 5 ひきこもり状態にある方への支援

主な事業の概要

※新型コロナウイルスの感染状況により事業内容を変更する場合があります。

青少年育成セミナー

《第1回》 令和3年6月19日（土） 13:30～15:15

【若者の自立支援】

会場：福島県青少年会館（福島市）大研修室 定員：50名
演題：「子ども・若者の育ちを支えるために」
講師：NPO 法人ビーンズふくしま理事長 若月 ちよ 氏

《第2回》 令和3年8月28日（土） 13:30～15:15

【情報化社会】

会場：福島県青少年会館（福島市）大研修室 定員：50名
演題：「ネット社会と若者」
講師：医療創生大学心理学部教授 中尾 剛 氏

《第3回》 令和3年11月27日（土） 13:30～15:15

【青少年教育】

会場：福島県青少年会館（福島市）大研修室 定員：50名
演題：「福島県の教育の現状と課題」（仮題）
講師：福島大学学長 人間発達文化学類教授 三浦 浩喜 氏

《第4回》 令和4年1月30日（日） 13:30～15:15

【心の健康】

会場：福島県青少年会館（福島市）大研修室 定員：50名
演題：「大人・子どもを元気にする魔法の処方箋」（仮題）
講師：福島県立医科大学医学部主任教授 大平 哲也 氏



【福島県青少年会館】



【令和2年度「第4回青少年育成セミナー」】

「大人への応援講座」開設支援事業

市町村や教育機関、青少年育成関係団体、企業等による「大人への応援講座」の開設に向けて講師を派遣する事業に取り組んでいます。（随時受付）

「家庭の日」 作品募集

- ◇募集対象 県内在住もしくは県外に避難している小・中・高生
- ◇募集期間 令和3年6月20日（日）「家庭の日」～令和3年9月3日（金）必着
- ◇表彰 各部門で対象別に審査を行い、優秀な作品については次のとおり表彰等を行います。
 - （1） 最優秀賞の受賞者には賞状及び賞品を贈呈します。
 - （2） 優秀賞または優良賞の受賞者には賞状を贈呈します。
- ◇発表 令和3年11月上旬に各報道機関に作品・氏名を発表するほか、絵画、ポスターの入賞作品は、「福島県青少年会館」（福島市黒岩）のロビーに展示します。
- ◇賞の授与 最優秀者には、令和3年11月19日（金）開催予定の「福島県青少年健全育成推進大会」の席上で賞を授与します。また、作文部門の最優秀賞受賞者には、併せて受賞作品の朗読をお願いすることとします。

「夏の思い出」ものづくり体験事業

- ◇ 対象 小学4年生以上の児童、生徒
- ◇ 開催日時 令和3年7月24日(土) 13:30~15:30
- ◇ 内容 「陶芸教室」
- ◇ 定員 20名
- ◇ 参加費 500円(教材費)



「陶芸教室」

第43回少年の主張福島県大会

- ◇ 開催日時 令和3年9月24日(金) 13:00~16:00
- ◇ 開催場所 いわき市文化センター
住所 〒970-8026 いわき市平字堂根町1-4
電話 0246(22)5431
- ◇ 対象 中学生
- ◇ 募集期間 令和3年6月1日(火)~8月23日(月)(必着)
- ◇ 表彰 最優秀賞1人、優秀賞5人及び優良賞10人に選ばれた方に、賞状及び賞品を授与します。
- ◇ 全国大会への出場
最優秀賞に選ばれた方は、北海道・東北ブロックで選考を受け、令和3年11月14日(日)、東京で開催予定の「第43回少年の主張全国大会」に出場します。(WEB開催)

第44回福島県青少年健全育成推進大会

- ◇ 開催日 令和3年11月19日(金)
- ◇ 場所 とうほう・みんなの文化センター
- ◇ 参加者 一般県民、県民会議会議員、青少年団体代表等
- ◇ 内容 表彰、朗読・発表、大会宣言の採択等



【令和2年度 福島県青少年健全育成推進大会】

福島県ひきこもり相談支援センターの運営

【福島県ひきこもり相談支援センター】

福島県内全域、全年齢を対象として、ひきこもりのご本人やご家族等に対する相談の対応及び相談支援の総合的コーディネートを行っています。
悩みを抱え込まず、お気軽にご相談ください。秘密は厳守します。相談は無料です。
相談方法：電話、面談(要予約)、メール、LINE(受付専用)、オンライン面談(要予約)
住所 960-8153 福島市黒岩字田部屋53-5 福島県青少年会館内
TEL/FAX 024-546-0866 E-mail shien-hikikomori@fukushima-youth.com

【福島県青少年育成県民会議連絡・問い合わせ先】

住所 〒960-8153 福島市黒岩字田部屋53-5(福島県青少年会館内)
TEL 024-546-0002 FAX 024-546-8312
Mail f-kenminkaigi@fukushima-youth.com
HP アドレス <http://www.fukushima-youth.com/>

散策 「円筒分水」から「ひきこもり相談支援センター」へ

福島県青少年育成県民会議 常勤理事 鈴木 忠夫

先日、好天に誘われ、いつものウォーキングコースから外れ、ちょっと遠出をした。

この季節、福島の自然の豊かさと力強さを実感する時期。広がる緑の水田、深緑の草木、さくらんぼの収穫からはじまる瑞々しい果物の実り、生あるものが躍動する季節である。近場で初めて歩く風景を楽しんだ。

水路沿いを暫く遡ると閑静な果樹畑の中に、突然、滝のような水音とともに現われた丸い構造物に出くわした。偶然にも栗本堰の「円筒分水」（福島市大笹生）にたどり着いた。（写真）

円筒の造形美、その中心に渾渾と湧き出る豊富な水量、勢いよく流れ落ちる水音、2方面へ分流する速い流れ。初めて見る「円筒分水」に、しばし圧倒された。

そこに佇みながら、時に水害として牙を剥くが、人と自然との営みを支えているのが天の恵である豊富な水であること、そ

して、水田、果樹園に満遍なく水を潤し続けているこの円形の施設と明確な目的を持って分かち流れるこの水は、豊かな生活を支える福島の礎をなしていることを実感した。

稲作中心文化の日本。古来、生きていくために必要な水をいかに確保するかは、全国各地でたびたび激しい「水争い」が繰り返されてきている歴史からみても、命をかけた重要な課題であったことがわかる。その課題を、武力ではなく平和的に解決する先人の知恵の結晶の一つが「円筒分水」。生きるための貴重な水を正確に公平に分配する、その公平性が誰の目にも明らかで、これにより何百年にも及んだ「水争い」に終止符が打たれた。この施設の構造は、円筒状の設備の中心部にサイフォンの原理で湧き上がった水を円筒の外周部から越流・落下する際に一定の割合に、分割する仕組みとなっている。

近年、円筒の機能美に魅せられた熱心な愛好家も多く、全国に180以上の「円筒分水」が確認されており、その中には、「二ヶ領用水久地円筒分水」（川崎市）のように、造形の規範との評価から国の登録有形文化財に登録されたものもあるとのこと。

県内には、前述のほか、伊達市（東根堰）、大玉村（長井坂）、須賀川市（新安積疎水）、会津坂下町（宮川幹線）、いわき市（下高久）の5施設が存在する。その流水は公平・正確に県土を潤し、豊かな環状の恵をもたらしている。

浅見短慮で、甚だ唐突だが、環状の中心から渾渾と「水」が湧き、勢いよく分かち流れ出した先に豊かな実りをもたらす「円筒分水」。この「役割」から連想したものがある。青少年育成県民会議に設置されている「福島県ひきこもり相談支援センター」である。家族や本人からの相談に対して、当センターが環状に並ぶ関係機関の輪の中であって、その相談者の湧き出る「思い」を整理し、助言とともに、その輪の中心から適切な支援機関へ放射状に連携を図る流れをつくっていく。必ずしも道は一つではなく、その先にあるそれぞれの自分らしい豊かな生き方につなげていく、その思いと役割が重なった。

当センターは、今年4月より、青少年会館内に改めて相談窓口を設け、県内全域、全年齢を対象として、支援の総合的コーディネートを行っている。ひきこもり・不登校など、ひとりで悩まず、まずは相談、活用いただきたいと思う。

昨年から今年にかけてのコロナ禍の中、三密を避け、新しい生活様式を意識した生活をする。余暇には必然的にウォーキングをする機会が多くなった。「円筒分水」との出会いは偶然。身近にこのような魅力的な農業遺産の傑作があるということを知った日、以来、他地域の「円筒分水」にも、一人、足を運び散策を楽しむことにもなった。



【「円筒分水」（福島市大笹生）】